

2019 年度 第 5 回 JSR 編集委員会 議事録

日時：2019 年 7 月 11 日（木）午前 8：00～10：00

場所：ウェスタ川越 3 階 研修室 4

出席：長谷川 和宏（担当理事）、川口 善治（委員長）、赤澤 努、今城 靖明、鈴木 亨暢、高野 裕一、高畑 雅彦、長谷 齊、福岡 宗良（以上、9 名）

欠席：大島 寧、竹内 大作、二階堂 琢也

陪席：事務局 / 鈴木 杏林舎 / 片山、鶴間、明松、真鍋（以上、5 名）

報告事項

1. 前回 JSR 編集委員会議事録について（資料 1）

一同査収した。

2. JSR 査読者の件および DE 任命について（資料 2）

川口委員長が、6 月 6 日に京都にて、長谷川理事と川口委員長、杏林舎、事務局と小会議を開催したこと、またその内容を報告した。

そのなかで、いままで川口委員長が行ってきた査読者選定の業務を、オンライン化を機に各学会担当委員ではない JSR 編集委員（JSSR 編集委員）に deputed Editor（以下、DE）に任せることとなったと説明した。DE は、鈴木委員、高畑委員、大島委員の 3 名である。

なお、従来は川口委員長が選定した独自の査読者リストがあり、50 名ほどが掲載されていたが、これからは『SSRR』と同様に学会評議員全員を基本とし、そこに今までの 50 名で評議員ではないメンバーも加え、査読者とする事が確認された。

川口委員長が、これからは評議員全員が JSR 誌の査読者になることについて、評議員に呼びかけたいと発言し、赤澤委員が査読を拒否される恐れがあるので、査読拒否をしないように強めに要請してはどうかと提案した。

川口委員長が、査読を依頼するとしても年間で考えると一人当たりの担当数は 1 件あるかないかと少ないため、拒否する評議員もいないのではと思うが、評議員の義務として定められていればよりよいと考えたと意見を述べ、一同賛同した。

3. 毎月 20 日のオンライン公開

杏林舎片山氏が、オンライン化スケジュールを紹介しつつ、発刊は今まで通り毎月 20 日に 1 回となることを報告した。

4. オンラインスケジュール案（資料 3）

杏林舎片山氏が、今月 7 月から来年 2 月までのオンライン化へ向けたスケジュールを説明した。

長谷委員が、オンライン化すると「ページ」という概念がなくなると思うが、ページ数が多くなっても経費は変わらないかと質問し、杏林舎片山氏がページ数ではなく、受付論文数で経費が変わると回答した。

高野委員が、現在はカラーページを指定すると著者に別料金がかかるが、オンライン後はどのようなになるのかと、動画を利用できるかについて問い、杏林舎片山氏がカラーページがあることでの経費加算はないことと、動画も掲載可能であり数千円程度の経費はかかるが、著者が支払うのではなく学会負担となると説明した。

川口委員長が、動画の長さや画素数等はどの程度まで許容されるかと尋ね、杏林舎片山氏が後日回答すると返答した。

審議事項

1. 投稿規程の修正（資料 4）

杏林舎明松氏が、現投稿規程と新投稿規程の差異を中心に説明した。赤澤委員が、JSR 誌には査読があることを明記したいと提案し「1.論文種類・採否」に差し入れることになった。
～採否は編集委員会で決定する。～採否は査読の上編集委員会で決定する。

「3-5 選択と付記」については、「3-5 選択」とのみすることになり、その説明部分である以下を一部削除することになった。

～JSR 投稿時には下記のいずれかであることを選択し、タイトルページに付記する。

～JSR 投稿時には下記のいずれかであることを選択する。

「選択」の

(7) 原著論文、症例報告またはテクニカルノートであり、他の雑誌にすでに投稿または掲載された二次出版である。

については、「原著論文」についての見解が

原著論文と称せるのは、オリジナルペーパーのみであり二次出版時には「原著」論文とは称せない

二次出版であってもオリジナルペーパーが原著論文なのであれば、原著論文で二次出版と称することができる

との2つの見解に委員会内の意見が分かれたため、理事会で検討することになった。

また医中誌に「二次出版」の категорияがないことについても、併せて理事会での確認を要請することになった。

「9.投稿に関する問合わせ先」に、杏林舎の電話番号が掲載されていないため、掲載することになった。

2. 優秀論文賞の掲載号、依頼（優秀）論文、Editorial、編集後記について（資料 5）
優秀論文を JSR の何号に掲載するかについて検討し、9 号とすることになった。
従来、学術集会での抄録評価上位 100 位に執筆依頼をしているが、今後も続けるかについて検討し続けることになった。
1,2,5,9 号の Editorial について、11 号からは DE の持ち回り執筆とすることになった。
編集後記は、冊子体がなくなるため、11 号からは掲載しないことになった。

3. アブストラクト・キーワード・タイトルについて外部英文校正を行うか（資料 6）
JSR 誌へ掲載されるアブストラクト・キーワード・タイトルについては、外部の英文校正を行うか否か検討し、JSR 編集委員会としては行う方向で一同意見の一致を見た。
経費が掛かることであり予算計上もしていないため、理事会での承認も得てから進める。

4. 現在は会員のみ閲覧可能となっているアクセス制限をどうするか
11 号からはアクセス制限を行わないことになった。

5. その他

オンラインジャーナルのサイトデザインについて（杏林舎配布資料 a）
11 号からのオンラインジャーナルのサイトデザインについて検討した。基本的に問題ないとしつつ、公開まで間があるので、委員全員へ配信のうえ、検討することになった。

論文体裁デザインについて（杏林舎配布資料 b）
11 号からの論文体裁デザインについても、上記と同様。

システムの使い方について（杏林舎配布資料）
査読・投稿システム（ScholarOne Manuscripts）について操作説明がなされた。査読者を選択する際には、全リストが閲覧でき、査読履歴もわかるようにしてほしいとの委員会からの希望があり、杏林舎が了解した。
査読者の履歴は 2 週に 1 度程度の頻度でアップデートされる。
また、従来あった「査読チェック表」が省かれている点について、今まで通りとすることとなり、システム内に従来のような査読チェック表を設けることになった。

編集事務局変更の告知のタイミング（正式な事務局開始日）
10 巻 9 号から、編集事務局変更の告知を出すことになった。投稿規程が完全にでき上がらないうちは、告知を出せないため、規程を早めに修正を急ぐことになった。

既に投稿されている著者へのオンラインでの代理投稿への通知のタイミング

9月号以降行う。

その他

長谷川理事が、JSR3号（以下、抄録集）を紙で出版するかについて、前回理事会でも議論したが、3号のみ紙で出すとの判断になった。しかしながらその後経費を試算したところ、1000万円以上になることがわかったため、再度理事会にて検討を依頼予定であるとして、委員内での抄録集の活用状況について意見を求めた。

出席委員全員が、紙の抄録集については活用しておらず、大正薬品が提供しているポケットプログラムと、アプリを利用しているとの回答であった。

ポケットプログラムの内容については、大正薬品の広告のみが掲載されていることもあり、今後ポケットプログラムのあり方についても検討していく必要があるとの見解となった。

アプリについては、杏林舎でほぼアプリと同等のwebを用意できるとの発言があった。

以上より、理事会で今後の抄録集・ポケットプログラムの出版をいかにするかの検討を要請することになった。

以上